

野田研一教授主要著作一覧

編著者名・書名『』・号 (No)・出版社名・発行年月日。【執筆担当箇所タイトル】

2015 年度

1. 野田研一、山本洋平、森田系太郎編著『〈他者〉とつながる、ということ——環境人文学の可能性』、勉誠出版、2016年3月刊予定。
2. 野田研一「概説ネイチャーライティング——「他者性のレッスン」と歴史的コンテキスト」、『環境思想・教育研究』第9号(特集 環境思想の探求)、環境思想・教育研究会、2016年3月刊予定。
3. 野田研一編著『交感幻想——環境と想像力』、ミネルヴァ書房、2016年3月刊予定。
4. 野田研一『失われるのは、ぼくらのほうだ——自然・沈黙・他者』水声社、2016年3月刊予定。
5. 野田研一(陳多友、楊曉輝ほか訳)『日本生態文学前理論研究』、上海交通大学出版社、2015年12月。【中国語翻訳版:「はしがき」、①『自然を感じるころ——ネイチャーライティング入門』、筑摩書房、2007年:②『交感と表象——ネイチャーライティングとは何か』、松柏社、2003年:③『環境という視座——日本文学とエコクリティシズム』、勉誠出版、2011年:④「〈風景以前〉の発見、もしくは「人間化」と「世界化」」、『水声通信——エコクリティシズム特集』、水声社、2010年】

35

2014 年度

1. 野田研一編著『〈日本幻想〉表象と反表象の比較文化論』、ミネルヴァ書房、2015年3月30日。【「序論 日本幻想」、第IV部4「はっぴいえんどの日本幻想、もしくは「渚感覚」」、「あとがきに代えて——「美化の拒否」に抗して】
【平成20年度～平成22年度科学研究費補助金 基盤研究(B)「〈日本幻想〉の研究——表象と反表象のダイナミックス」、研究課題番号:20320046の成果出版】
2. 野田研一編著『平成20年度～平成22年度科学研究費補助金 報告書 基盤研究(B) 学術的交感の理論的・歴史的考察——「自然—人間の関係学」』、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科 野田研一研究室、2015年3月15日。研究課題番号:24320059の成果報告書。【「存在物にして記号——他者論としての交感論に向けて】
3. 野田研一「自然を読むための一〇編——ネイチャーライティング入門」、『国立公園』、2014年10月号、No.727、一般財団法人自然公園財団、2014年10月1日。
4. 野田研一、結城正美編(于海鵬ほか訳)『越境之地——環境文学論序説』、中国社会科学出版

社、2014年4月。【『越境するトポス——環境文学論序説』彩流社（2004年7月25日）の中国語翻訳版】

5. 野田研一、山里勝己、高田賢一、高橋勤、スコット・スロヴィック編（刘曼ほか訳）『自然と文学的対話——都市・田園・野生』、中国社会科学出版社、2014年4月。【『自然と文学のダイアローグ——都市・田園・野生』、彩流社（2004年9月4日）の中国語翻訳版】

2013年度

1. 野田研一、笹田直人、山里勝己編著『アメリカ文化 55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2013年11月10日。【「アメリカ幻想——新世界へ」、「発見の物語——植民地言説の系譜」、「アメリカ人になる——アイデンティティの神話」、「モノとイメージのアメリカ」、「自然と風景」、「大衆文化」】
2. 野田研一「ことばの力」、藤原書店編集部編『花を奉る——石牟礼道子の時空』、藤原書店、2013年6月30日。
3. 石井敏、久米昭元、浅井亜紀子、伊藤明美、久保田真弓、清ルミ、古家聡編『異文化コミュニケーション事典』、春秋社、2013年1月29日。【「環境コミュニケーション」ほか】
4. 野田研一「『環境と文学のあいだ』（公開講演会シリーズ）をふりかえる」、*Rikkyo ESD Journal*, No.1, 2013, 立教大学ESD研究所。

2012年度

1. 野田研一「解説」、梨木香歩著『渡りの足跡』、新潮社、2013年3月1日。
2. 野田研一、高橋勤「〈インタビュー〉まず言葉から壊れた」、石牟礼道子『石牟礼道子全集・不知火 第16巻』、藤原書店、2013年2月20日。【再録】
3. 野田研一「コンコードを〈旅〉するソロー——移動のレトリック」、山里勝己、石原昌英編著『〈オキナワ〉人の移動、文学、ディアスポラ——琉球大学 人の移動と21世紀のグローバル社会Ⅶ』、彩流社、2013年1月15日。
4. 野田研一「講演(5) ネイチャーライティング」、『安藤百福自然体験活動指導者養成センター 紀要 人と自然』、第3号、安藤百福自然体験活動指導者養成センター、2012年。

2011年度

1. 野田研一、鳥飼玖美子、平賀正子、小山巨編『異文化コミュニケーション学への招待』、みすず書房、2011年12月9日。【「世界/自然とのコミュニケーションをめぐる」】
2. 野田研一、渡辺憲司、小峯和明、ハルオ・シラネ編著『環境という視座——日本文学とエコクリティシズム アジア遊学143』、勉誠出版、2011年7月10日。【「自然という他者——声と主体のゆくえ」、座談会「環境という視座」、「二次自然と野生の自然」】
3. 野田研一編著『〈風景〉のアメリカ文化学——シリーズ・アメリカ文化を読む2』、ミネルヴァ書房、2011年4月20日。【「序——風景の問題圏」】

2010年度

1. 野田研一「都市とウィルダネス——ポーターランドとしての郊外」、笹田直人編著『〈都市〉のアメリカ文化学——シリーズ・アメリカ文化を読む3』、ミネルヴァ書房、2011年3月30日。

2. 野田研一「〈風景以前〉の発見、もしくは「人間化」と「世界化」、『水声通信 No. 33 特集 エコクリティシズム』、2010年第1号、水声社、2010年7月20日。

2009年度

1. 野田研一「別冊解説：シートンという地図—動物論の時代へ」、『アーネスト・T・シートン 主要著作集』(Ernest Thompson Seton: The Major Works)、アティーナ・プレス、2009年6月5日。
2. NODA, Kenichi, “Booklist of International Environmental Literature.” Coordinated by Scott Slovic. *World Literature Today: Literature, Culture, Politics*, 83 (1). The University of Oklahoma Press, 2009.

2008年度

1. 野田研一「環境コミュニケーション論・覚書—交感と世界化」、『持続可能な未来のための異文化コミュニケーション学—明日の国際理解教育への試案』、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科(平成18年度～平成20年度科学研究費補助金 基盤研究(B)/課題番号18320092の成果報告書)2009年2月。
2. 野田研一「世界は残る。・・・失われるのはぼくらのほうだ—〈いま/ここ〉の詩学へ」、『水声通信』、Vol.24、「特集 交感のポエティクス」、水声社、2008年6月10日。

2007年度

1. 野田研一「国際的連携を求めて」、生田省悟、村上清敏、結城正美編『「場所」の詩学—環境文学とは何か』、藤原書店、2008年3月30日。
2. 野田研一、阿部治監修『あなたの暮らしが世界を変える—持続可能な未来がわかる絵本』、山と溪谷社、2007年9月25日。
3. 野田研一『自然を感じるころ—ネイチャーライティング入門』、筑摩書房、2007年8月10日。
4. 野田研一、木下卓、窪田憲子、高田賢一、久守和子 編著『英語文学事典』、ミネルヴァ書房、2007年4月20日。

2005年度

1. 野田研一「いま/ここ不在—発見の物語(ナラティヴ)としての『ウォールデン』」、上岡克己、高橋勤編著『ウォールデン—シリーズ もっと知りたい名作の世界3』、ミネルヴァ書房、2006年3月30日。
2. 野田研一「エマソンの〈視〉の問題—『自然』(一八三六年)再読」、武藤脩二、入子文子編著『視覚のアメリカン・ルネッサンス』、世界思想社、2006年3月1日。
3. 野田研一、阿部治、鳥飼玖美子監訳『持続可能な未来のための学習』、立教大学出版会、2005年3月31日。
4. 野田研一「環境コミュニケーション論のための試論」、立教大学東アジア地域環境問題研究所編『立教大学東アジア地域環境問題研究所 最終報告』、立教大学東アジア地域環境問題研究所、2005年3月31日。
5. NODA, Kenichi, “Where is HERE, When is NOW?: Literary “Presentism” after

Romanticism.”立教大学東アジア地域環境問題研究所編『立教大学東アジア地域環境問題研究所 最終報告』、立教大学東アジア地域環境問題研究所、2005年3月31日。

2004年度

1. 野田研一、山里勝己、高田賢一、高橋勤、スコット・スロヴィック編『自然と文学のダイアローグー都市・田園・野生』、彩流社、2004年9月4日。【「アジアの自然と文学」】
2. 野田研一、結城正美編著『越境するトポス—環境文学論序説』、彩流社、2004年7月25日。【「序文・文学からの環境研究に向けて」、「山犬をめぐる冒険—藤原新也における野生の表象」】(平成12年度～平成14年度科学研究費補助金 基盤研究(B) / 課題番号12410132の成果出版:平成16年度科学研究費補助金/成果公開促進費により出版。)
3. 野田研一「ナチュラリヒストリーからネイチャーライティングへ」、『AMERICAN NATURE WRITING, Part (2)』別冊解説、本の友社、2004年5月。

2003年度

1. 野田研一「〈訳注式〉英語詩演習(24): Archibald MacLeish, “Ars Poetica”(1926)—詩的イメージ論」、『英語青年』3月号、研究社、2004年2月。
2. 野田研一「自然/野性の詩学—星野道夫と藤原新也」、『ユリイカ』12月号、青土社、2003年12月。
3. 野田研一『交感と表象—ネイチャーライティングとは何か』、松柏社、2003年6月10日。

2002年度

1. 野田研一「自然のテキスト化と脱テキスト化—ネイチャーライティング小史」、富山太佳夫編『岩波講座 文学 第7巻—つくられた自然』、岩波書店、2003年1月22日。
2. 野田研一・結城正美「第9章 環境」、笹田直人、堀真理子、外岡尚美編著『概説 アメリカ文化史』、ミネルヴァ書房、2002年4月5日。
3. 野田研一「世界/自然とのコミュニケーションをめぐる」、『立教異文化コミュニケーション研究』1号、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科、2003年3月1日。

2001年度

1. 野田研一「文学と環境—ネイチャーライティングの視点」、財団法人地球環境戦略研究機関編『環境メディア論—IGES地球環境戦略研究シリーズ3』、中央法規出版、2001年10月30日。
2. 野田研一「ネイチャーライティング研究とポスト・ロマン主義」『AMERICAN NATURE WRITING, Part (1)』(別冊解説)、本の友社、2001年6月。
3. 野田研一「〈風景〉としてのネイチャーライティング」、『英語青年』5月号、研究社、2001年4月。

2000年度

1. 野田研一・高橋勤「まず言葉から壊れた—石牟礼道子氏に聞く」『石牟礼道子対談集—魂の言葉を紡ぐ』、河出書房新社、2000年12月。【再録】
2. ASLE-Japan/文学・環境学会編『たのしく読めるネイチャーライティング—作品ガイド

120』、ミネルヴァ書房、2000年10月20日。【「ウォーレス・ステグナー」、「エドワード・アビー」、「バリー・ロベス」、「自然詩」、「風景」】

1998年度

1. 野田研一編『フォリオα』5号「特集〈自然〉というジャンル2・ジャパニーズ・ネイチャーライティング」、ふみくら書房、1999年2月15日。【「自然／風景の仮構性」、野田研一・高橋勤「まず言葉から壊れた——石牟礼道子氏に聞く」】
2. 久守和子、石井倫代、窪田憲子編著『たのしく読める英米女性作家——作品ガイド120』、ミネルヴァ書房、1998年5月30日。【「白鷺」、「不毛の大地」、「ティンカー・クリークのほとりで」、「鳥と砂漠と湖と」、「コラム10 女性とネイチャーライティング」】
3. 野田研一「エマソンの〈視〉の問題——「自然」(1836年)再読」、『英語青年』10月号、研究社、10月。

1997年度

1. 野田研一「エクセントリック／エコセントリックなまなざし——エドワード・アビーにおける荒野の表象」、原川恭一編『アメリカ文学の冒険——空間の想像力』、彩流社、1998年3月25日。
2. 野田研一、加藤貞通、結城正美編『Ten Minute Ecologist』金星堂、1998年1月20日。
3. 野田研一「背後なき自然／ネイチャーライティングが問いかけるもの」、20世紀文学研究会編『文学空間1 自然／ネイチャー』、創樹社、1997年6月25日。

1996年度

1. 野田研一「自然から神話へ——ネイチャーライティングの問題域」、『ユリイカ』2月号、「特集 世界の神話をどう読むか」、青土社、1997年2月1日。
2. 野田研一、山里勝己編著『場所の感覚——アメリカン・ネイチャーライティング作品集』研究社、1997年2月20日。
3. 野田研一「ソーの家——第二の自然としての〈住〉」、久守和子、高田賢一、中村邦生編著『英米文学にみる家族像——関係の幻想』ミネルヴァ書房、1997年1月30日。
4. 野田研一、スコット・スロヴィック編著『アメリカ文学の〈自然〉を読む——ネイチャーライティングの世界へ』、ミネルヴァ書房、1996年7月25日。【「序 エコクリティシズムの方位」、「ピクチャレスク・アメリカ——十九世紀風景美学の形成」】

1995年度

1. 野田研一「交感あるいは自然を読むことば」、田村英之助監修、太田雅孝編著『〈幻実〉の詩学——ロマン派と現代詩』、ふみくら書房、1996年3月25日。
2. 野田研一「表象と現存——現代ネイチャーライティングの方法的懐疑」、「神人同型(同性)論」、『ユリイカ』3月号「特集 ネイチャーライティング」、青土社、1996年3月1日。
3. 野田研一、木下卓、太田雅孝編著『たのしく読める英米詩——作品ガイド120』、ミネルヴァ書房、1996年3月20日。【「コラム5〈自然〉を歌う詩人たち」、「ヨーロッパに旅立った画家、トマス・コールへ」、「たんぼぼに寄せて」、「個と全体」、「コラム9 現代アメリカ詩人」】

4. 野田研一「秋をめぐる交感のアスペクト」、『CEL』34号、大阪ガス・エネルギー文化研究所、1995年10月。
5. 野田研一(訳) エドワード・アビー『荒野、わが故郷』、宝島社、1995年9月5日。

1994年度

1. 野田研一「地図と物語 — Barry Lopez, *Arctic Dreams: Imagination and Desire in a Northern Landscape*」、『英語青年』2月号、研究社、1995年2月。
2. 野田研一「魔法の瞬間、あるいは〈他者探し〉」、『CEL』26号、大阪ガス・エネルギー文化研究所、1994年8月。

1993年度

1. 野田研一、高田賢一、笹田直人編著『たのしく読めるアメリカ文学 — 作品ガイド150』、ミネルヴァ書房、1994年2月20日。【「リップ・ヴァン・ウィンクル」、「大草原」、「自然」、「ウォールデン — 森の生活」、「ぼく自身の歌」、「私が死のために立ちどまれなかったから」、「ティンカー・クリークのほとりで」】
2. 野田研一、本間武俊、村上清敏(共訳)、ラッセル・J・ライジング『使用されざる過去 — アメリカ文学理論 / 研究の現在』、松柏社、1993年11月15日。
3. 野田研一編『フォリオα 2』、特集：「特集〈自然〉というジャンル / アメリカン・ネイチャーライティング」、ふみくら書房、1993年11月5日。【(訳)「アメリカン・ネイチャーライティングの現在」、「(スコット・スロヴィック氏へのインタビュー) 自然を問う、人間を問う — 文学への新たな視角」、(論文)「〈交感〉の意匠 — エマソン、ソロー、アニー・ディラード」、(編訳)「アメリカン・ネイチャーライティング アンソロジー」スコット・スロヴィックと共編】

1991年度

1. 野田研一「流動と停滞 — 〈外部〉もしくは〈瘦木〉に接近する試み」、『英米文学』52号、立教大学文学部、1992年3月。
2. 野田研一「〈完全な視覚〉を求めて」、江河徹編著『〈身体〉のイメージ — イギリス文学からの試み』、ミネルヴァ書房、1991年11月10日。

1988年度

1. 野田研一「絶望の地理学 — エミリー・ディキンソンの自然詩をめぐる試み」、大神田丈二、太田雅孝、津久井良充編『読みの軌跡 — 英米文学試論集』、弓書房、1988年11月30日。

1985年度

1. 野田研一「象徴あるいは「願望充足」としてのインディアン像をめぐる試論」、札幌学院大学アメリカ研究会編『アメリカ文化論 — 少数民族とアメリカ』、札幌学院大学、1985年12月30日。

1984年度

1. 野田研一「象徴あるいは「願望充足」としてのインディアン像をめぐる試論」『人文学部紀要』

36号、札幌学院大学、1984年10月。

2. 野田研一「〔狭い目〕(narrow Eyes)あるいは不可能のヴィジョン——エミリー・ディキンソン論」『人文学部紀要』35号、札幌学院大学、1984年4月。

1983年度

1. 野田研一、西村頼男、島川雅史(共訳)、ウィリアム・T・ヘーガン『アメリカ・インディアン史』、北海道大学図書刊行会、1983年5月25日。

1981年度

1. 野田研一「絶望の封印——エミリー・ディキンソンNOTE(IV)」『論集——人文編』31号、札幌商科大学、1982年3月。

1980年度

1. 野田研一「Death Poetryの構成と展開——エミリー・ディキンソン論」、『英米文学』41号、立教大学文学部、1981年3月。

1978年度

1. 野田研一「死の詩編(Death Poems)とJ510の方法——エミリー・ディキンソンNOTE(Ⅲ)」『立教レビュー』第8号、立教大学文学部、1979年3月。

1976年度

1. 野田研一「謎と鉛の時間——エミリー・ディキンソンNOTE(Ⅱ)」、『氷焰』1号、氷焰同人会、1977年3月。
2. 野田研一「詩人と非(詩的)なるもの——エミリー・ディキンソンNOTE(Ⅰ)」、『立教レビュー』第6号、立教大学文学部、1977年3月。

主な講演、口頭発表等

1. 野田研一(招待講演)テーマ「ネイチャーライティングの魅力」、大連工業大学日本語学院(中国・遼寧省大連市)、2014年8月23日。
2. 野田研一(招待講演)テーマ「文学的環境研究の可能性」、「2014年度日本語教育日本研究国際学術検討会」広東外語外貿大学(中国・広東省広州市)、2014年8月20日。
3. 野田研一(招待講演)「里の不在——『もののけ姫』の衝撃」、「金沢大学附属図書館〈環境学コレクション〉推進事業公開シンポジウム 里山×里海×文学」、金沢大学角間キャンパス、石川県金沢市、2013年7月20日。
4. 野田研一(招待講演)「交感論をめぐって——遭遇・接触・交感」、安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター、2013年3月。
5. 野田研一(招待講演)「ネイチャーライティングの魅力と可能性——太宰治にふれつつ」環境思想・教育研究会/研究大会「環境教育特別セミナー——青森の自然を書(描)く」弘前大学教育学部、青森県弘前市、2012年9月30日。
6. 野田研一「交感論の可能性をめぐって」、環境／文化研究会8月例会「テーマ「交感論」(自然環境との交感)」、東洋大学文学部、東京都文京区、2012年8月25日。

7. 野田研一(招待講演)「アメリカのネイチャーライティングを語る — 野性の観念をめぐる」、安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター「第二回 環境思想シンポジウム — ネイチャーライティングと環境思想：環境問題に対して文学はどう貢献できるのか」、安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター、長野県小諸市、2012年3月。
8. 野田研一(招待講演)「コンコルドを〈旅〉するソロー — 移動のレトリック」、琉球大学「人の移動と21世紀のグローバル社会プロジェクト：レクチャー・シリーズ：人の移動と文学」、琉球大学法文学部、沖縄県那覇市、2012年3月。
9. 野田研一(講演)“Landscape into Land: The Discovery of Pre-landscape and Post-Romanticism.” The Fifth International Conference on Ecological Discourse, *Ecocriticism in Asia: Reorienting Modernity, Reclaiming Nature?* 台湾・淡江大学英文科主催、台湾・淡江市、2010年12月。
10. 野田研一(司会)国際シンポジウム「エコクリティシズムと日本文学研究 — 自然環境と都市」、立教大学大学院文学研究科日本文学専攻主催、2010年1月。
11. 野田研一(講演)“Tradition and Modernity: Ecocriticism in Japan.” 国際会議 *Eco-Philosophy and Future Direction for Ecocriticism*. 台湾・淡江大学英文科主催、台湾・淡江市、2009年6月。
12. 野田研一(招待講演)「アメリカン・ピクチャレスク — 画像 (picture) としての自然、環界 (milieu) としての自然：視覚の中心化から解体へ」、群馬県立女子大学「ヴィジュアルアメリカ」主催、2009年6月30日。
13. 野田研一(基調講演)“Beyond the World of Words: Edward Abbey, Annie Dillard, and Jorge Luis Borges.” 国際会議 *International Conference on Ecology and Languages*. アルゼンチン・国立コルドバ大学、アルゼンチン・コルドバ市、2008年8月。
14. 野田研一(招待講演)琉球大学英語教育セミナー「コミュニケーションに結びつけるリーディング指導のありかた：立教大学英語カリキュラムの実践例」、琉球大学法文学部、2000年3月。
15. 野田研一(招待講演)「自然との交感 — ネイチャーライティングの世界」、武蔵野女子大学英文学会、東京都西東京市、1998年6月24日。
16. 野田研一(招待講演)「ネイチャーライティングの魅力と可能性」、ヤマケイ・ネイチャーライティング研究会 第1回講演会、山と溪谷社、1998年2月28日。
17. 野田研一(招待講演)「ネイチャーライティングの現状と課題」、『環境と文学シンポジウム』、主催：読売新聞北陸支社、読売文化フォーラム石川、共催：ASLE-Japan/文学・環境研究会、石川県金沢市、1995年3月。
18. 野田研一、山里勝己(琉球大学)、ジョン・エルダー(ミドルベリー大学)(招待講演)「環境教育に関するワークショップ」、日本環境教育フォーラム、山梨県北杜市、1994年11月。

科学研究費助成金履歴

科学研究費補助金 / 基盤研究 (B)	2015～2017年	日本のネイチャーライティングにおける交感表象の歴史的様相 研究課題番号：15H03201	野田研一(代表者) (研究分担者3名)
科学研究費補助金 / 基盤研究 (B)	2012～2014年	文学的交感の理論的・歴史的考察—「自然—人間の関係学」 研究課題番号：24320059	野田研一(代表者) (研究分担者4名)
科学研究費補助金 / 基盤研究 (B)	2009～2011年	持続可能な未来へのコミュニケーション学構築 研究課題番号：21320108	鳥飼玖美子(代表者) 研究分担者(野田研一他7名)
科学研究費補助金 / 基盤研究 (B)	2008～2010年	〈日本幻想〉の研究—表象と反表象のダイナミックス 研究課題番号：20320046	野田研一(代表者) (研究協力者7名)
科学研究費補助金 / 基盤 (C)	2006年	日韓の環境文学の研究調査 研究課題番号：18632002	生田省悟(代表者) 研究分担者(野田研一他4名)
科学研究費補助金 / 基盤研究 (B)	2006年～2008年	持続可能な未来のための異文化コミュニケーション学—明日の国際理解教育への試案 研究課題番号：18320092	鳥飼玖美子(代表者) 研究分担者(野田研一他異文化コミュニケーション研究科4名)
科学研究費補助金 / 成果公開促進費	2004年	『越境するトポス—環境文学論序説』彩流社(2004年7月25日)	野田研一(代表者)
科学研究費補助金 / 基盤 (B)	2000～2002年	環境と文学—米・日本におけるネイチャーライティングの歴史及び理論の研究 研究課題番号：12410132	野田研一(代表者) (研究分担者4名)

* 主要著作一覧の作成に当たり、山田悠介氏(異文化コミュニケーション研究科後期課程)のお力添えを得た。記して謝意を表す。